



ゆたかクリニック病児保育室だより

2025年8月 第7号

営業日：月～金 8：00～17：30（祝日は休業）

所在地：小倉南区湯川新町4丁目25-2

TEL：(093) 932-7550



ゆたかクリニック
病児保育室について

以下の①②は、子どもの手が届く範囲に置いてはいけません！！

① 子どもの口に入る大きさの物

※目安としてトイレットペーパーの芯に入る大きさの物は、口に入ります。

② なめたり飲んだり、目に入ったりすると有害な物

※市販の物は、注意書きを読んで毒性を確認しましょう。



☆誤飲で多い物☆

「たばこ」が最多の40%、次いで[医薬品]11%、「玩具」10%

「金属製品」6%、「プラスチック製品」5%、「洗剤・洗浄剤」5%

「化粧品」3%、「硬貨」3%、「電池」2%です。

今回のテーマは、

「子どもの誤飲事故について」です！



誤飲事故とは、飲み込むべきでない物を誤って口に入れて飲み込んでしまう事故のことです。物によっては無害な物もありますが、一般家庭にある物でも危険な物はたくさんあります。

赤ちゃんは生後5カ月ごろから、手に持った物を何でも口に入れてなめるようになります。これは、なめることによって色々な物の感触を確認する本能的な行動で、3歳ぐらいまで続きます。

『口に入れたりなめたりしたらいけないよ！』と言って分かってくれるのは、早くても4歳以降です。

5カ月を過ぎると少しずつ寝返りや這い這いができるようになります。床での行動範囲が広がります。また10カ月を過ぎるとつかまり立ちができるようになります。台の上など高いところにも手が届くようになります。赤ちゃんは自分の行動範囲にあるものは、何でもつかんで口に入れるので、危険な物は赤ちゃんの行動範囲には、絶対に置かないように気をつけてください。

子どもの誤飲に気付いたら以下を行ってください！

① あわてず大声をださずに、子どもの口の中に危険な物が残っているかを確認する。 ※発見者が大声を出してあわてて叱ってしまうと、子どもが

びっくりしたり、泣き出して逆にのみこんでしまうことがあるためです。

残っていれば子どもを泣かせないように 慎重にとりだす。

② 子どもの様子がおかしい場合（意識がない、ぐったりしている、顔色が悪い、苦しそう、吐いている、けいれんしている等）は、まよわずに救急車を呼ぶ。

③ まずは、「吐かせない」が原則！吐いたものが肺に入ると、物によっては、肺炎になる場合があります。吐かせた方が良いか否かは、かかりつけ医などに電話で確認しましょう。 ※吐かせた方が良い場合は、「お子様の口に大人が指を入れ、大人の指でお客様の舌の奥を押し下げる」という方法を試してください。

④ 子どもの様子が普通であれば、すぐにかかりつけ医・近くの救急病院・中毒110番などに電話で相談し、どうしたら良いかをたずねる。

⑤ 病院に行くときは、舐めたり飲んだりした物と同じものがあれば持っていく。また、成分がわかる紙などがあれば持っていく。

困った時は「中毒110番」 情報提供：無料

大阪中毒110番
（24時間対応）
072-727-2499

つくば中毒110番
（9時から21時対応）
029-852-9999

たばこ誤飲事故専用電話
（365日24時間・自動音声）
072-726-9922

★ 一般家庭にある危険な物の例 ★

① たばこ・電子たばこ



嘔吐、けいれん、不整脈、呼吸停止となる場合があります。
小児の致死量は、約たばこ1本分です。また、電子たばこのニコチンカートリッジは、紙たばこよりもニコチンが濃縮されており危険度が増します。特に、ジュースの缶に吸殻を入れ、その液を飲んだ場合は、非常に危険です！！

② 薬



成分によって症状は様々です。重症な内臓障害・呼吸停止となる場合があります。

③ 洗剤・洗浄剤



嘔吐、消化管出血など。誤嚥すると肺炎になります。

④ 殺虫剤・ホウ酸だんご

意識障害、けいれんとなる場合があります。

⑤ マニキュア・除光液

昏睡となる場合があります。誤嚥すると肺炎になります。

⑥ ボタン電池・磁石

胃や腸に穴があく場合があります。



⑦ 灯油

誤嚥すると少量でも肺炎になります。



★ 少量の誤飲では、ほとんど無害な物の例 ★

(少量とは1gまたは、1ml未満のこと)

① キッチン

- ・食用油 ・酒 ・冷蔵庫用脱臭剤 ・保冷剤 ・マッチの先端
- ・ろうそく

② 文房具

- ・インク ・クレヨン、クレパス ・絵の具 ・鉛筆 ・消しゴム
- ・墨汁 ・粘土 ・のり

③ 化粧品

- ・石鹸 ・おしろい ・口紅 ・クリーム ・化粧水 ・乳液
- ・オーデコロン ・ベビーオイル ・香水 ・ベビーパウダー
- ・濡れティッシュ

④ その他

- ・歯磨き粉 ・シャンプー ・ヘアートニック ・シリカゲル
- ・使い捨てカイロ ・線香 ・蚊取り線香 ・花火

家庭内での子どもの事故で最も多いのは「誤飲」です。
子どもは、物をなめたり飲み込むだけでなく、鼻や耳の穴に物を入れてしまう場合もあります。小さい物が見当たらない時は、子どもの鼻や耳の穴も調べてみた方が良いです。
また、大人が薬を飲んでいるところを子どもが目撃すると、子どもは自分も試してみようと思います。大人が薬をのむ時は子どもに見られないように注意しましょう。